

「カーペンターズデンティストリー」からの脱皮

笑顔創造空間 かわべ歯科 川邊研次先生



かわべ歯科内観。やわらかな光が空間を演出する。

静岡県菊川市で「笑顔創造空間 かわべ歯科」をご経営されている川邊研次先生より「インフォームドコンセント」をテーマにご寄稿いただきました。予防医療や咬合医学をテーマにさまざまな講演活動や、インターネットでの情報発信などを積極的に行っておられる川邊先生のご識見を、ぜひ一読下さい。

II 「尊敬と信頼」 インフォームドコンセント

日本では、インフォームドコンセントを「説明と同意」と解釈することが多いのですが、本来は「尊敬と信頼」と解釈するのが正しいと聞いたときに、自分の途が変わったようです。説明を行うのではなく、医療人として尊敬され、しかも信頼される人になるということ。もう一つは、人が持つ本来の生き方、快楽を求めて痛みを避ける。つまり好きな人々と一緒に方向を決定し、その方向をお伝えすることでお互いの信頼とそして一貫性のある的を絞った説明によって信頼と尊敬が得られる、ということ。

III 「三方良し」 近江商人の心得から考える

例えば、好きな人と仕事をしているとなぜか全部がうまくいってしまうし、心も元気になってしまふもの。結果としてその気持ちも多くの人に伝わります。トリプルハッピーの考えは、日本の近江商人の商売の心得に似ています。自分良し、相手良し、社会良し…「三方良し」。この方向性がインフォームドコンセントの基本です。医療を行う私どもが最も大事にしなければならぬのは、目の前の患者さんを通じて元気な笑顔の社会を伝えることだと思えます。この心がお互いの未来へと繋がるインフォームド

コンセントを作り上げる大きな力になることと思えます。

「未来」を共有すること 医師と患者さんとは

人は自分を知らないのが常…まず患者さんには自身を理解していただくことが必要です。デジタルレントゲンの場合には、パノラマ、デンタルなどをプリントアウトして、患者さんに差し上げ、ご自身の現在の状況をしっかりと把握していただくこと、口腔内を口腔内カメラで撮影しプリントアウト、個々の歯牙の状況などはやはり大きなモニター画面を使つてのプレゼンにかなうものは無いと思います。そしてミクロの世界は、やり顕微鏡を液晶画面に映し出すことが必要でしょう。

悪くなつてしまった方に、今までと同じことをすれば、今までの延長でしかない、無くなるための医療を希望することになり、目的が歯を削ったり抜いたりすることになってしまいます。しかし、健康でエネルギーシユな生活を送ることが目的であれば、方向性も医療の体制も自然と変わってくる。現状をしっかりと把握し未来を語ることでできれば、お互いの未来は大きく変わります。私も、インフォームドコンセントという言葉で片付けてしまわず、価値観を同じくし、健康と一緒に考え、行動に意味を保たせることによって、

自身の未来をより一層健康で楽しくしていくことができる医療を告げ実行するべきなのです。

主役は、あくまで患者さん自身

カーペンターズデンティストリーの時代が終わりを告げなければ、いつまで経ってもインフォームドコンセントは架空の言葉になってしまいます。相手を思う最高の医療の提供は相手の免疫力を上げ、私どもはそのお手伝いをして将来と一緒に元気に笑顔で生きていくことです。主役は自分自身であるという人生の基本を理解していただくこともインフォームドコンセントの基本でしょう。自由という最も責務ある意識を持った方向性をビジュアルな場面に焼き付ける医療の説明は、もっとも効果がありお互いに方向性を同じくするインフォームドコンセントの主流になることと思われれます。

アメリカでは、歯を削って収益を得る歯科医は「カーペンターズデンティストリー」と揶揄され、またイギリスでは、多くの国民が積極的に予防歯科を選択した結果、今では国民の30%が虫歯や歯周病と無縁な生活を送れるまでに至っているそうです。一方、我が国の歯科医療は、これからどんな道をたどるのでしょうか？アールエフズ・ヴォイスでは多くの先生から寄せられているさまざまなご意見を、誌面上で随時ご紹介していきます。ぜひご期待ください。



今回ご寄稿頂いた川邊先生は歯科医を対象にしたメールマガジン(無料)も発行されています。

登録をご希望の方はこちらのアドレスから。

メールマガジン 笑顔創造空間通信 → <http://hiramekikojo.com/kawabe.htm>